

## 初級日本語学習者の語彙の誤用傾向

—オンライン語彙学習教材作成を目指して—

### The Tendency of Vocabulary Misuse by Japanese Language Learners at Beginner's Level

徳本浩子

Hiroko TOKUMOTO

#### 1. はじめに

外国語学習において語彙学習は基本的課題である。長年外国語として日本語を教える中で、語彙学習にいかに関心を引き付けるか、いかに定着度を上げるか、いかに効果的に計画するかという課題が常にあった。学生の語彙学習に対するモチベーションを維持するために新出語彙クイズを毎課実施しても、その知識を維持できるかはまた別問題である。文型学習、会話などと比べ、語彙学習には学生の関心が向きにくく、その当然の結果として語彙学習を苦痛に感ずる学生が多いようである。毎学期末の授業アンケートを見ても、語彙学習についてのコメントのほとんどが「苦痛だった」「大変だった」というもので、成績が良かった学生からですらポジティブなコメントが返ってくることはほとんどなく、語彙拡大を目指す授業運営の難しさを表している。

意味と表記とを結びつけるには、意味から表記へ、あるいは表記から意味への検索・回収 (retrieve) を繰り返すことが必要であることは広く知られている (Baddely, 1997)。さらに、第2言語習得の分野において語彙は、時間的な間隔を空けずに繰り返し学習する (集中学習, massed repetition) よりも、ある程度の時間的インターバルを設けて繰り返し学習する (間隔反復,

spaced repetition) ほうがより長く記憶にとどまり有効であるということも明らかにされている (Nation, 2001; Karpicke, et al., 2007)。この効果は「分散効果 (spacing effect) <sup>1)</sup>」として知られており、語彙学習のような、非常に多くの情報を長期間維持しなければならない分野に適用されることが多い。しかし、教室内授業において既習語彙を何度も反復学習するには、以下の2つの理由から困難が伴う。まず、定められた時間の中で教えねばならない文型項目が決まっているため、語彙学習に割くことが出来る時間がごく限られているということである。そして更に、学習者によって定着度に差があるため、既習語彙の場合はクラス全体に対して一斉に同じ内容を教えることが出来ないということである。とは言え、文型知識が増えても語彙数が増えなければアウトプットが制限されるため、日本語学習に対する学生の達成感、満足感には結びついていきにくい。このような状況を打破する一つの方策として考えられるのは、オンラインでの個別学習システムである。しかし残念なことに、日本語の初級学習をサポートするオンライン学習プログラムは、ひらがな・カタカナや漢字などについてはいくつか公開され<sup>2)</sup>、擬音語・擬態語に特化したソフト<sup>3)</sup>なども開発されているが、語彙学習に特化したものは、筆者の知るところまだない。少なくとも一般に公開されているものはない。

名古屋外国語大学国際日本語教育インスティテュート (以下、インスティテュート) は、留学生200名計画を掲げて2017年9月から新カリキュラムをスタートしたが、学生数が増えるに伴って学生の興味、目的、学習スタイルなどがますます多様化し、学習者の個人差も大きくなってきている。そのような状況への対応として、オンラインの個別学習システムの利用が今後必要性を増してくるであろうことは容易に予測できる。そこで、その手始めとして、インスティテュートの留学生の半数近くを占める初級日本語学習者のために、初級語彙学習を支援するオンライン学習プログラムを構築したいと考えている。

## 2. 研究目的

上記のオンライン語彙学習プログラムを学習者が効率よく学習できるよう

にデザインするにあたっては、初級日本語学習者にとって習得が難しい語彙とはどのようなものかを知る必要がある。しかし、隈本（2007）が「第2言語習得研究の中で、語義習得は文法習得に比べて、量的には決して多くはない。日本語教育研究においては非常に少ない。」と述べているように、参考となる調査はまだあまり多くない<sup>4</sup>。

そこで、インスティテュートの留学生について、どのような語彙に間違いが多いかを調査することにし、初級学習者を対象に4ヶ月にわたって語彙クイズを実施して得点の分析を行った。その分析結果が最終的に初級語彙学習を支援するオンライン学習プログラムの作成につながることを目的としているが、それを別にしても、インスティテュートにおいて語彙拡大を目指す授業を運営するに際しての有意義な知見になるはずである。

本論の目的は、以下の2点について調査し、その結果を考察することである。

- (1) 語彙クイズで間違いが多いのはどのような語彙か
- (2) 得点はどのように変化していくか

### 3. 調査

#### 3.1. 調査協力者

調査を実施したのは、インスティテュートのJapanese 100の受講者11名<sup>5</sup>で、属性は表1の通りである。フランスからの1名を除いて全員が授業を英語で受けられるだけの英語力を有していた<sup>6</sup>。

Japanese 100は、初級前半の日本語を1学期間で修了する集中コースで、授業は月曜日から木曜日まで毎日2コマずつ、1週間に計8コマ行われ（1コマ90分）、3名の教員がチームを組んで教えた。日本語学習歴のある学生はおらず、全員ひらがな学習からのスタートとなった。主教材として『みんなの日本語初級1 第2版』を使用し、3コマで1課分の学習を終える速度で進めて、学期中に第1課から第25課まで学習した。

表1 調査協力者の属性

	性別	国籍	母語		性別	国籍	母語
A	女	カナダ	英語	G	女	アメリカ	英語
B	男	カナダ	英語	H	女	アメリカ	英語
C	男	カナダ	英語	I	女	イギリス	英語
D	男	ドイツ	ドイツ語	J	女	フランス	フランス語
E	男	ドイツ	ドイツ語	K	女	ベトナム	ベトナム語
F	男	ドイツ	ドイツ語				

## 3.2. クイズ

### 3.2.1. 語彙の選択

『みんなの日本語初級1 第2版』の各課の新出語彙から、クイズに出題する語彙を15語から23語選択した。担当教師3名によって生活上および学習上必要性が高いと判断された語彙が選択された。調査協力者は全員同時期に日本語の知識ゼロで来日しインスティテュートに入ったため、語彙によって未習もあれば既習もあるというバラつきはない。『みんなの日本語初級1 第2版』の提出語彙数は約1060語だが、クイズで出題した総出題数はそのうちの339語で、全体の約3分の1を超える数であった。選択した339語を、文法上の分類と語種別分類にしたものがpp.157-161の表2と表3である。

### 3.2.2. 実施方法

クイズは、英語及びフランス語の語彙を見てそれに対応する日本語を筆記再生する形式で、各課の学習を始める直前に実施した。英訳との対応語が多い場合もあるが、教科書にある日英および日仏の対照語彙リストの記載どおりに出題するというルールにして、出題意図と異なる答えは誤答として扱えるようにした。書かせたい語尾などの語形も明示的に指示を与えて、たとえ正しい語であっても間違った語形の場合は誤答として扱った。習得度をみるには各課の終了後に実施するという方法が一般的であるが、語彙がわからなければその語彙が使われている該当課が読めないため学習効果が上がりにくいという観点から、語彙学習は予習に力を入れさせたいという現場の要請が

表2 単語クイズ出題語彙一覧（文法上の分類）

総計	名詞	動詞	形容詞（計42語）		副詞（計49語）			その他（計6語）	
			い	な	時間	程度	その他	接続詞	その他
339語	計130語	計112語	29語	13語	18語	17語	14語	2語	4語
4課	図書館 郵便局	働きます 休みます 終わります 起きます 寝ます 勉強します			きょう あした きのう 日曜日 何時 今晚 毎日				
5課	家族 友達 学校 駅 誕生日 電車 スーパー	来ます 行きます 帰ります			いつ 今週 先月 来年		歩いて		
6課	朝ごはん お茶 水 手紙 宿題 映画 ビデオ ビール	読みます 書きます 聞きます 飲みます 食べます 見ます 買います			ときどき			それから	
7課	お金 はさみ 母 父 お母さん お父さん 荷物 プレゼント パソコン シャツ	貸します 借ります あげます もらいます 教えます					もう まだ		
8課	仕事		新しい 難しい 忙しい 大きい 小さい 安い おいしい 古い 面白い	静かな 親切的な 元気な ひまな きれいな		とても			
9課	音楽 歌 漢字 時間 用事 約束 子供 絵 スポーツ	わかります		好き 嫌い		少し 全然 たくさん	どうして		
10課	女の人 男の子 猫 犬 前 右 上 下 喫茶店 公園 窓 ポスト テーブル	います あります							
11課	外国 両親 姉 兄 妹 弟 兄弟 りんご お姉さん お兄さん	(会社を)休み ます			ずっと	一つ 三つ 一人 二人			ぐらい
12課	季節 天気 冬 曇り 雨 パーティー		近い 遠い 涼しい 暖かい 少ない 遅い 重い 軽い	簡単な			どちらも 初めて		

総計	名詞	動詞	形容詞 (計42語)		副詞 (計49語)			その他 (計6語)	
			い	な	時間	程度	その他	接続詞	その他
<b>339語</b>	計130語	計112語	29語	13語	18語	17語	14語	2語	4語
13課	頃 週末 スキー	遊びます 泳ぎます 疲れます 迎えます 食事をします 結婚します 買い物します	広い 狭い 欲しい			大変	何か どこか 別々に		
14課	住所 読み方	付けます 閉めます 急ぎます 教えます 待ちます 手伝います 曲がります 停めます 見せます 始めます 取ります			すぐ あとで				
15課	製品 資料 経済 服 独身 歯医者 時刻表 カタログ	売ります 作ります 置きます 知ります 住みます 研究します							すみません
16課		押します 浴びます 入れます 入ります 下ろします 出ます 乗ります 降ります 乗り換えます	長い 短い 暗い 若い 明るい						
17課	風呂 禁煙 風邪 病気 薬	出かけます なくします 覚えます 払います 心配します 返します 脱ぎます 持って行きます (薬を)のみます	危ない	大切な 大丈夫な					
18課	現金 趣味 社長 日記 メートル インターネット	弾きます 歌います 捨てます 替えます 洗います 運転します 予約します できます					特に		
19課	調子 日	なります 登ります 掃除します 泊ります 洗濯します	強い 弱い 眠い		もうすぐ だんだん	一度 一度も			

総計	名詞	動詞	形容詞 (計42語)		副詞 (計49語)			その他 (計6語)	
			い	な	時間	程度	その他	接続詞	その他
<b>339語</b>	計130語	計112語	29語	13語	18語	17語	14語	2語	4語
20課	こっち どっち 僕 君 言葉 着物 始め 終わり ビザ	要ります 調べます 修理します		いろいろな			みんなで	けど	うん ううん
21課	物価 不当 夢 意見 ニュース	言います 思います 勝ちます 気を付けます 役に立ちます		不便な	最近	きっと 多分 そんなに			
22課	帽子 めがね 家賃 スーツ セーター コート ユーモア	掛けます 履きます かぶります 着ます します 生まれます				よく			
23課	(お)湯 故障 音 駐車場 道	変えます 引きます 渡ります 訊きます 触ります 歩きます 出ます				何回も			
24課	引越し お菓子 準備 おじさん /おじいちゃん おばあさん /おばあちゃん	紹介します 説明します 案内します 連れて来ます 連れて行きます くれます				全部	他に 自分で		
25課	転勤 田舎 意味 億 チャンス	考えます 着きます 頑張ります 足りません 年を取ります		暇な			もし		

あったため、まず予習から始めさせ、クイズの後で確認を兼ねながら語彙導入をするという方法を採用した。また、単なる表記ミスなのか音を間違えて覚えてしまったための誤答なのか判断できない場合は、返却時に口頭でその語を発音させてみて、音の間違いなのか表記の間違いなのかを確認した。

第1課から第3課まではひらがながまだ定着しておらず口頭による確認にとどめクイズは実施していないため、実施したクイズは第4課から第25課までの計22回である。

また、動詞については、「ます形<sup>7</sup>」の他に「辞書形<sup>8</sup>」「て形<sup>9</sup>」も出題したが、これら3つは意味上は一つで、同一単語の異形態である。クイズを実施した際にはこれらは異なる単語として別々に採点されたが、本論では文法習

表3 単語クイズ出題語彙一覧（語種別分類）

総計	和語	漢語	外来語	混種語
339語	221語	67語	21語	30語
4課	働きます 休みます 終わります 起きます 寝ます きょう あした きのう	図書館 郵便局 日曜日 毎日 今晚 何時		勉強します
5課	来ます 行きます 帰ります 友達 駅 いつ 歩いて	家族 誕生日 学校 電車 今週 先月 来年	スーパー	
6課	読みます 書きます 聞きます 飲みます 食べます 見ます 買います お茶 水 手紙 ときどき それから	宿題 映画	ビデオ ビール	朝ごはん
7課	貸します 借ります あげます もらいます 教えます 母 お母さん 父 お父さん お金 はさみ 荷物 もう まだ		プレゼント パソコン シャツ	
8課	仕事 安い 古い 新しい 忙しい おもしろい おいしい 難しい 大きい 小さい 静かな きれいな ひまな とても	親切な 元気な		
9課	わかります 好き 嫌い 歌 絵 子供 少し たくさん どうして	全然 音楽 漢字 時間 用事 約束	スポーツ	
10課	います あります 女の人 男の子 猫 犬 窓 上 下 前 右	公園 喫茶店	テーブル ポスト	
11課	(会社を) 休みます お兄さん お姉さん 兄 姉 弟 妹 りんご ずっと 一つ 三つ 一人 二人 ぐらい (副助詞)	両親 兄弟 外国		
12課	少ない 近い 遠い 涼しい 暖かい 遅い 軽い 重い 冬 曇り 雨 どちらも 初めて	季節 天気 簡単な	パーティー	
13課	遊びます 泳ぎます 疲れます 迎えます 欲しい 広い 狭い 頃 何か どこか	週末 大変 別々に	スキー	食事します 結婚します 買い物します
14課	付けます 閉めます 急ぎます 手伝います 教えます 待ちます 曲がります 停めます 見せます 始めます 取ります 読み方 すぐ あとで	住所		
15課	売ります 作ります 置きます 知ります 住みます	独身 製品 資料 経済 時刻表 服	カタログ	研究します 歯医者 すみません
16課	押します 浴びます 下ろします 入れます 入ります 出ます 乗り換えます 乗ります 降ります 長い 短い 明るい 暗い 若い			
17課	なくします 覚えます 返します 出かけます 持って行きます 脱ぎます (薬を)のみます 払います 危ない 薬 風邪	風呂 禁煙 病気 大切な 大丈夫な		心配します



総計	和語	漢語	外来語	混種語
339語	221語	67語	21語	30語
18課	弾きます 歌います 捨てます 替えます 洗います できます	現金 趣味 社長 日記	インターネット メートル	運転します 予約します 特に
19課	泊まります なります 登ります 強い 弱い 眠い 日 もうすぐ	調子 だんだん 一度		掃除します 洗濯します 一度も
20課	要ります 調べます いろいろな 言葉 僕 君 着物 始め 終わり こっち どっち 〜けど うん ううん		ビザ	修理します みんなで
21課	言います 思います 勝ちます 夢 きっと そんなに	物価 意見 最近 不便な 多分	ニュース	役に立ちます 気を付けます 本当
22課	掛けます 履きます かぶります 着ます します 生まれます めがね よく	家賃 帽子	セーター スーツ コート ユーモア	
23課	訊きます 引きます 渡ります 触ります 出ます 歩きます 変えます (お)湯 音 道	故障 駐車場		何回も
24課	くれます 引越します おじいさん/ おじいちゃん おばあさん/ おばあちゃん	準備 全部		紹介します 説明します 案内します 連れて来ます お菓子 連れて行きます 他に 自分で
25課	考えます 着きます (年を)取ります 足ります 田舎 暇な もし	転勤 意味 億	チャンス	頑張ります

得ではなく、語彙の意味習得に焦点を当てるので、教科書の最初から出現する「ます形」のみを残し、途中から現れる「辞書形」と「て形」については省いて集計した。

#### 4. 結果

学期を通したクラス平均点は75.3%であった。そこで、それを目安として、それを下回るクラス平均正答率の語彙を間違いが多いと判定した。75.3%はかなり高得点のように聞こえるが、出題した語彙はすべて重要語彙で満点近い点を取ることが期待されており、ほぼ3分の1の学生が間違った語彙は間違いが多いと判定してもよいと判断した。

以下は誤答を文法、語種、音、課毎の比較、学生間の相関という5つの観点から分類した結果である。この章では結果を報告し、それぞれについての考察は次章で述べる。

#### 4.1. 文法上の分類に焦点をあてた誤答の分類

まず文法上の分類に注目し、出題した語彙を名詞、動詞、形容詞、副詞、その他の5つのグループに分けた。次に、形容詞を「い形容詞」「な形容詞」の2つ、副詞を「時間」「程度」「その他」の3つ、「その他」を「接続詞」「その他」の2つの小グループに分類した。クラス平均正答率75%以下の語彙が各小グループの総出題数に占める割合をまとめたものが表4である。

表4 クラス平均正答率75%以下の割合（文法上の分類）

	名詞	動詞	形容詞		副詞			その他	
			い形容詞	な形容詞	時間	程度	その他	接続詞	その他
出題語数	130	112	29	13	18	17	14	2	4
正答率75%以下の語数	19	33	8	1	12	1	5	2	0
%	14.6%	<b>29.5%</b>	<b>27.6%</b>	7.7%	<b>66.7%</b>	5.9%	<b>35.7%</b>	<b>100%</b>	0.0%

表中に太字で記したように、「副詞-時間」「接続詞」の正答率がかなり低く、それに次いで、「動詞」「い形容詞」「副詞-その他」の正答率が低い。クラス平均正答率75%以下の語彙が各グループの総出題数に占める割合は、「動詞」は29.5%、「い形容詞」は27.6%、「副詞-その他」は35.7%、「副詞-時間」は66.7%、「接続詞」は100%である。「動詞」「い形容詞」「副詞-その他」は総出題数の約3分の1、「副詞-時間」は総出題数のほぼ3分の2、「接続詞」は出題されたすべての語彙について、クラス平均正答率が75%に達していないということがわかる。

#### 4.2. 語種に焦点をあてた誤答の分類

次に、語種に注目して、出題した語彙を、和語、漢語、外来語、混種語の4つに分類した。クラス平均正答率75%以下の語彙が各グループの総出題数に占める割合をまとめたものが表5である。

表5 クラス平均正答率75%以下の割合（語種別分類）

	和語	漢語	外来語	混種語
出題語数	221	67	21	30
正答率75%以下の語数	58	21	7	9
%	26.2%	31.3%	33.3%	30.0%

クラス平均正答率75%以下の語彙が総出題数に占める割合は、和語26.2%、漢語31.3%、外来語33.3%、混種語30.0%で、いずれについても3割前後と似たような結果となった。すべての語種についてクラスのほぼ3分の1が間違っていたということであり、特定の語種に間違いが集中しているのではないということがわかる。

日本語学習者の表記上の誤りが多い語の特徴として、よくカタカナ語が挙げられる<sup>10</sup>。しかし、表5のとおり、他の語種と比べて、特に外来語についてクラス平均点が低いということはなかった。

#### 4.3. 音に焦点をあてた誤答の分類

日本語学習者の発音上、表記上の誤りが多い語の特徴<sup>11</sup>として、特殊拍<sup>12</sup>、有声無声の区別（清音、濁音、半濁音）を含む語がある。そこで、音に注目し、出題した語彙を「濁音・半濁音」「長音」「促音」「拗音」「撥音」を含むグループに分類した。各グループにおいて、クラス平均正答率75%以下の語彙が総出題数に占める割合をまとめたものが表6である。

表6 クラス平均正答率75%以下の割合（音別分類）

	濁音・半濁音 を含む語	長音を含む語	促音を含む語	拗音を含む語	撥音を含む語
出題語数	112	63	9	25	41
正答率75%以下の語数	38	25	3	10	39
%	34.5%	39.7%	33.3%	40.0%	<b>95.1%</b>

クラス平均正答率75%以下の語彙がそれぞれの総出題数に占める割合は、濁音・半濁音を含む語が34.5%<sup>13</sup>、長音を含む語が39.7%<sup>14</sup>、促音を含む語が33.3%<sup>15</sup>、拗音を含む語が40.0%<sup>16</sup>、撥音を含む語が95.1%<sup>17</sup>であった。例を脚

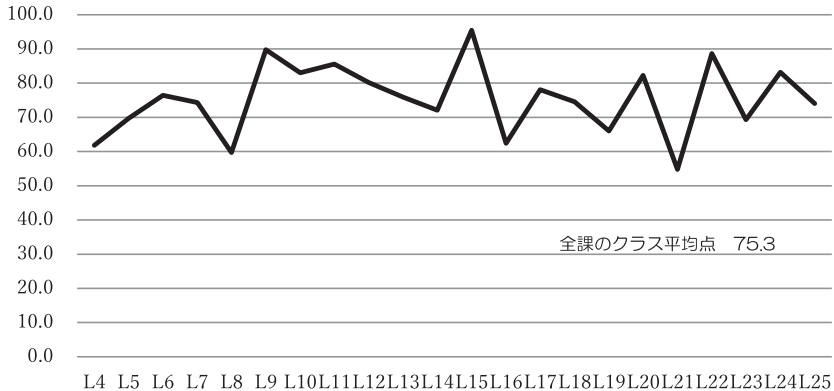
注に示す。表中に太字で記したように、撥音を含む語に間違いが集中しているが、それ以外は特定の音に間違いが集中しているのではないということがわかる。しかし、撥音以外の音についても、クラス平均正答率75%の語彙がそれぞれの総出題数に占める割合は、濁音・半濁音34.5%、促音33.3%、長音39.7%、拗音40.0%と決してよい数値ではなく、特殊拍、有声無声の区別を含む語に日本語学習者の誤りが多いという先行研究に矛盾する結果ではなかった。

#### 4.4. 課ごとの比較

各課のクラス平均点をまとめたものが表7である。

L4 (クラス平均61.8%)、L8 (クラス平均59.7%)、L16 (クラス平均62.5%)、L21 (クラス平均54.8%) の4つの課は、他の課と比べると正答率が良くないということがわかる。

表7 課ごとのクラス平均点



### 5. 結果の考察

#### 5.1. 文法上の分類に焦点をあてた誤答について

本調査では、「副詞-時間」「副詞-その他」「接続詞」「動詞」「い形容詞」の平均正答率が低かった。そのうち「動詞」と「い形容詞」についてどの課で多く間違ったか確認すると、「動詞」が第4、14、16、21課、「い形容詞」が

第8、12課であった。以下の「5.4課ごとの比較について」で述べる文法項目の難易度と語彙定着度の関係に原因が求められるようである。

しかし、「副詞-時間」「副詞-その他」「接続詞」については原因が特定できない。以下の語種にも音にも原因が求められないし、文法項目の難易度と語彙定着度の関係にも原因が求められない。このことについては、今後も継続して調査を進めたいと思う。

## 5.2. 語種に焦点をあてた誤答について

坪根 et al. (2001) は、「学習が困難だと学習者があげたものには、漢字に関する問題、外来語、オノマトペ、敬語、多義語、俗語、助詞、受身、自動詞・他動詞等がある」と報告している。

オノマトペ、敬語、俗語は初級前半のレベルでは未習であり、助詞や受身は文法要素なので、本論の調査には含まれていない。自動詞・他動詞のチェックは、文型クイズで行ったため、語彙クイズでは実施していない。また、語彙の音を正しく覚えているか確認するために、答えは漢字を使わずひらがなまたはカタカナで書くように指示したので、漢字に関する検証も本調査ではできない。

残る外来語の困難点について見てみると、カタカナ語については、今回調査した外来語の約3分の1においてクラス平均正答率が75%以下で、決して高いとは言えず、坪根 et al. (2001) の「学習者が外来語学習を困難と感じている」という報告と矛盾しない傾向が見られた。しかし、表5のとおり、他の語種と比べて、特に外来語だけがクラス平均点が低いということではない。これが本学のインスティテュートの留学生に特徴的な傾向なのか、今後も継続して調査する必要がある。

## 5.3. 音に焦点をあてた誤答について

富田 (2015) は、中国語・英語・韓国語・ベトナム語のそれぞれを母語とする日本語学習者37名を対象に外来語の誤表記を調査した結果、その誤表記の約8割に長音に関する間違いが含まれていると報告している。また、促音

に関する誤表記は英語母語話者に集中しているとも述べている。

しかし、本調査においては、出題された撥音を含む語の95.3%がクラス平均正答率75%以下と、撥音に誤答が集中した。富田(2015)が報告している長音や促音については、クラス平均正答率75%以下の語は総出題数のそれぞれ41.5%と45.5%で決して良い数値ではないが、撥音はその2倍の値であり、母語に関係なく誤表記の約8割に長音に関する間違いが含まれているという富田(2015)の指摘する傾向は見られなかった。また、インスティテュートの留学生はほとんど全員、英語が母語、もしくは英語が母語並みの学生であるため、英語以外の言語話者の調査は行えておらず、富田(2015)の指摘する促音の間違いが英語母語話者に集中する傾向については考察できなかった。

促音と濁音・半濁音を含む語については、クイズ返却時に実際に発音させて確認してみたところほぼ問題なく発音できていたので、表記ミスであると考えられる。濁点と半濁点を混同してしまったり、うっかりと「っ」や濁点を付け忘れてしまったりということが大半であった。しかし、長音に関しては、発音させたところ間違いが多々あったので、単なる表記ミスというよりも、音を間違えて覚えてしまっているということも考えられる。また、撥音については、日本語の撥音には異音が多いということが影響していると思われる。実際に発音させてみても、正確に撥音を発音できる初級学習者は少ない。また子音単独にもかかわらず一拍になることができるということにも原因があるのかもしれない。しかし、同じ条件である促音は正答率が撥音に比べればかなり高かったので、上記の異音が多いという理由は必ずしも当てはまらない。この考察も今後の課題である。

#### 5.4. 課ごとの比較について

桑原(2005)は、難易度の比較的高い文法項目が導入される課については語彙の定着が悪いと報告し、その理由として、文法が複雑になり覚えなければならぬ語形変化が増えれば、それらを整理して正しく再生できるようにするための時間が必要であるため、語彙学習に割ける時間が少なくなってしまうからだろうとしている。確かに、今回の調査でクラス平均点が低かった課

を見てみると、第4課では「数字および時間に関する表現」、第8課では「形容詞」、第16課では「て形を使った節接続<sup>18)</sup>」、第21課では「複文<sup>19)</sup>」と重要な文法項目が導入されており、上記の桑原（2005）の報告と矛盾しない。

この結果をまとめると、難易度の高い文法項目が導入される課についてはクラス平均点が低いということになる。上記の報告のように、難易度の高い文法項目が導入される課については語彙学習が十分にはできていない傾向にあるということである。

また桑原（2005）は、後半の課になってようやく得点に上昇傾向が見え始めるとも述べているが、その傾向は今調査では観察できなかった。

## 6. まとめ

本論の最初に掲げた以下の2つの疑問について、調査の結果とその考察をまとめる。

### (1) 語彙クイズで間違いが多いのはどのような語彙か

文法上の分類に焦点を当てると、「副詞-時間」「副詞-その他」「接続詞」「動詞」「い形容詞」の平均正答率が低かった。「動詞」と「い形容詞」については、文法項目の難易度と語彙定着度の関係に原因が求められるのではないかと推察した。

音に焦点を当てると、撥音を含む語に間違いが多かった。日本語の撥音に異音が多いことと拍の問題が影響しているのではないかと推察した。

### (2) 得点はどのように変化していくか

文法項目の難易度が比較的高いと思われる課の語彙に間違いが多いという結果であった。このことは先行研究でも報告されており、本調査でもそれが確認できた。しかし、後半に入ると得点に上昇傾向が見られるという先行研究の結果は、本調査では確認できなかった。

## 7. 今後の課題・展開

本調査は調査協力者数も少なく一般化はできないが、インスティテュートの初級日本語授業における語彙習得の傾向は示唆できたのではないかと考え

る。上記の結果・考察を踏まえて、インスティテュートの初級日本語学習者のために語彙拡大を目指す授業を計画し、さらにそれをサポートするオンライン学習プログラムをデザイン・構築したいと考えている。

桑原（2005）は、新出語彙クイズの得点変動は学習者間で似た傾向が観察されるのに対し、既習語彙クイズの得点変動の傾向はそれぞれの学習者で大きく異なるということを報告し、既習単語クイズ成績の個人差が大きいということは、正答できなかった語彙が個々の学習者によって大きく異なるということだと述べている。このことは、オンラインの個別学習システム導入の大きな理由となる。新出と既出の両方の語彙指導やクイズを限られた授業時間内で実施することは難しいが、既出語彙の学習機会をオンラインで提供することが出来れば、正答できなかった語彙を学習者がそれぞれ自分のペースで学ぶことが出来るようになる。是非とも何らかの語彙学習を支援するプログラムを提供したいと考えている。

今回の調査は事前学習の結果を計っているが、その定着率を見るために、学習後の学修成果の測定も行いたいと考えている。語彙の接触頻度、出現頻度、使用頻度も変数として考えられるが、日本において日本語を学習している状況では常に日本語に接しているわけで、その頻度が判定しがたい。それらについてどのように考えればよいかも、今後の課題である。また、隈本（2007）は、語彙学習と漢字学習とは切り離して考えられないとし、初級学習者の語彙学習において漢字が果たす重要性を指摘しているが、現在は意図的に語彙クイズでは禁止している漢字使用についても、今後考えていくつもりである。

## 参考文献

- 隈本・ヒーリー順子（2007）『第19回日本語教育連絡会議論文集』 Vol.19, 90-99.
- 桑原陽子（2005）「初級日本語学習者を対象とした単語学習の継続的評価の試み」『福井大学留学生センター紀要』第1号, 15-24.
- 坪根由香里・鈴木理子・阪本史代・神谷道夫（2001）「学習者から見た効果的な語彙の指導法・学習法 ―アンケート結果より―」『小出記念日本語教育研究会論文集9』, 107-127.



- 富田彩月 (2015) 「日本語学習者の外来語の誤表記に関する一考察」『言語科学研究：神田外語大学大学院紀要』21号, 101-110.
- 水野りか (2003) 『学習効果の認知心理学』ナカニシヤ出版
- 谷内美智子 (2002) 「第二言語としての語彙習得研究の概観 —学習形態・方略の観点から—」『言語文化と日本語教育』特集号, 155-169.
- Baddely, Alan D. (1997) *Human Memory: Theory and Practice*, London: Lawrence Erlbaum Associates.
- Caple, C. (1996) "The Effects of Spaced Practice and Spaced Review on Recall and Retention Using Computer Assisted Instruction". Dissertation for the degree of Doctor of Education, North Carolina State University.
- Karpicke, J. D., & Roediger, H. L. (2007) "Expanding Retrieval Practice Short-Term Retention, but Equally Spaced Retrieval Enhances Long-Term Retention". *Journal of Experimental Psychology: Learning, Memory, and Cognition*, 33(4), 704-719.
- Nation, I.S.P. (2001) *Learning Vocabulary in Another Language*, Cambridge: Cambridge University Press.

## 注

- 1 Caple (1996) や水野 (2003) などの研究では、「分散効果」を語彙などの学習プログラムに反映させることの重要性が示唆されている。
- 2 国際交流基金の「みなと」(<https://minato-jf.jp/>)、名古屋大学の Web CMJ (<http://opal.ecis.nagoya-u.ac.jp/webcmj/>) などがある。
- 3 国立国語研究所「日本語を楽しもう！」<http://pj.ninjal.ac.jp/archives/Onomatope/>
- 4 谷内 (2002) も「日本の語彙習得研究は、研究の数そのものは少ない。」と述べている。
- 5 履修登録者は12名であったが、そのうち1名は学期の半分ほどを欠席してクイズの半数近くを受けなかったため除外した。
- 6 履修者11名の内10名は授業すべてを英語で受けられるだけの英語力を有していたが、フランスからの1名の英語力に不安があったため、英語版とフランス語版の文法解説を使用し、語彙クイズは英語とフランス語の併記とした。
- 7 ます形の例： 食べ**ます** 会**います** 飛**びます**
- 8 辞書形の例： 食**べる** 会**う** 飛**ぶ**
- 9 て形の例： 食**べて** 会**って** 飛**んで**
- 10 坪根 et al. (2001)、富田 (2015) にその記述がある。
- 11 富田 (2015) は、長音を始めとする特殊拍を含む語に、日本語学習者の誤表記が多いと報告している。
- 12 撥音「ん」、促音「っ」、長音の3つは単独で音節を構成しない。単独で音節を構成する自立拍に対して、特殊拍と呼ばれる。
- 13 濁音・半濁音の誤答例：まがり**ます**⇒ま**かり**ます、スー**パー**⇒スー**ー**パー、ゆう**びん**きょく⇒ゆう**びん**きょく
- 14 長音の誤答例：ゆう**びん**きょく⇒ゆ**びん**きょく、お**ねえ**さん⇒お**ねい**さん

- 15 促音の誤答例：ずっと⇒ずと、きっと⇒きと
- 16 拗音の誤答例：じこくひょう⇒じこくひよう
- 17 撥音の誤答例：きんえん⇒きねん、じゅんび⇒じゅうび
- 18 私は毎朝6時に起きて、朝ごはんを食べて、新聞を読んでから、大学に行きます。
- 19 日本語は難しいと思う。